

「今こそ思い切った事業再構築を 攻めの人材登用と育成が未来を創る」

〔概況〕

2020 年 10 月～12 月期の状況では景況感 DI・売上高 DI・利益 DI・新規受注 DI の悪化が緩和されましたが、コロナウイルス第 3 波の懸念から次期予想 DI は悪化しました。景況感 DI は今回最も改善幅が大きく、前回の▲36.9 から 22.4 ポイント改善し▲14.5 となりました。

業種別の動向では、全体的に悪化緩和が見られましたが、製造業（生産財）は景況 DI・売上高 DI・利益 DI が悪化しました。建設業（土木・設備）はプラス域への好転が見られましたが次期予想 DI はマイナス域となりました。

経営上の問題点は、2020 年 1～3 月期調査から 4 期連続で「民間需要の停滞」が最も多く挙がっています。続いて「人材獲得難」が挙げられており 2 期連続で上昇しています。

特設項目ではコロナに関する助成金の申請状況や融資の利用状況について調査しました。助成金関係はおよそ 6 割の企業が申請しており 8 割以上は 2 ヶ月程度で入金されたと回答しました。コロナ禍における融資はおよそ 6 割が受けており、「念のため」や「つなぎ融資」という回答が多く挙がりました。しかしおよそ 4 割の企業は「経営者保証を要求された」と回答しました。

経営指針書に関する設問では、前回調査よりも「作成し実践している」と回答した企業の割合が増加し、「作成する必要はない」と回答した企業の割合が減少しました。経営指針書の検証状況では、半数以上の企業が「毎月検証している」と回答し「全く検証していない」と回答した企業はありませんでした。経営指針書と景況感のクロス分析では「作成し実践している」と回答した企業は景況感の改善幅が最も高くなりました。

コロナウイルスで需要が停滞する中でも人材獲得難は経営課題として挙げられています。緊急事態宣言が出たことで需要が停滞し、今後更なる資金繰り難が予想されます。このような状況だからこそ経営資源を見直し、事業の再構築と人材の採用及び共育が今後の鍵となりそうです。

〔調査要領〕

調 査 時 2020 年 12 月 1 日～2020 年 12 月 25 日

対 象 企 業 （一社）福岡県中小企業家同友会 全会員企業 2,192 社（12 月時点）

調 査 の 方 法 会員専用サイト（一部 FAX）にて配信、自計記入

〔回答企業の概要〕

回 答 数 280 社の回答（回答率 12.8%）

（製造業 50 社、建設業 53 社、商業流通業 36 社、サービス業 141 社）

企業規模（従業員数）

0～10 名以下 151 社、11 名～20 名以下 52 社 21 名～50 名以下 52 社

51 名～100 名以下 18 社、100 名以上 17 社

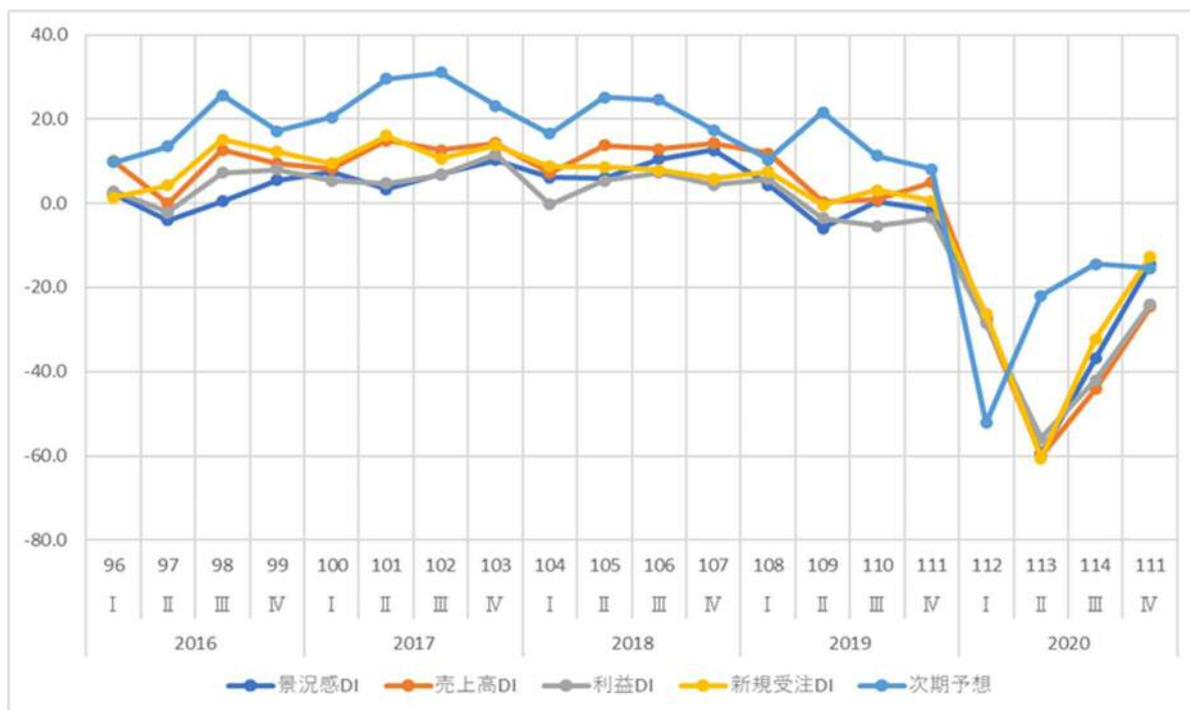
企業の所在地 福岡地区 174 社、北九州地区 33 社、筑豊地区 33 社、県南地区 35 社、
県外 5 社

【全体的な特徴】

○ 2期連続改善するも次期予想悪化

景況感が過去最低となった4～6月期から2期連続で改善しましたが次期予想は更に減少しコロナウイルス第3波の影響が危惧される結果となりました。

項目	第114回	第115回	変動幅
景況感 DI	▲36.9	▲14.5	22.4
売上高 DI	▲44.1	▲24.6	19.5
利益 DI	▲42.0	▲24.0	18.0
新規受注 DI	▲32.2	▲12.7	19.5
次期予想 DI	▲14.5	▲15.4	▲0.9



<<会員企業の声（一部抜粋）>>

No.	5.今期景況判断	1.業種	3.本社所在地	9.そのような結果の理由
1	非常に良い	製造業（生産財）	北九州地区	自動車の生産回復などを背景に、客先である日立、ソニー、NEC等の半導体製造が伸びたことが大きな要因である。
3	非常に良い	建設業（設備）	福岡地区	建設業はコロナの第3波が来ても契約、発注がスタートしたら工事が止まらない。業者不足、人手不足。福岡ビックバンでの業者不足。
15	よい	建設業（設備）	北九州地区	受注先がホームセンター等の仕事が多く、台風やコロナ等で売上が伸びている為。改築・改修仕事が増えている。
20	よい	商業・流通業	筑豊地区	コロナ第2波明け
25	よい	サ業（対事業所）	福岡地区	コロナの影響でWEBが見直されて問合せが増えた。
45	普通	製造業（生産財）	福岡地区	コロナで既存のお客様の仕事が減り、コロナ対策の仕事が増えた。
125	悪い	建設業（設備）	県南地区	新築工事の現場が少ないため
127	悪い	商業・流通業	県南地区	同業者による競争とコロナの影響でお客様からの受注が減少しているため
163	非常に悪い	サ業（対事業所）	福岡地区	コロナによる買い控えからの、法人需要減
167	非常に悪い	サ業（対個人）	北九州地区	コロナで客予約、宴会なし。

【業種・従業員規模・地域別の特徴】

○ 業種別の動向

業種別の動向では全体的に悪化の緩和が見られます。特に建設業（土木・設備）では好転しプラス域となっています。しかし次期予想は悪転が見られます。

第115回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		277(-16)	277(-18)	278(-15)	276(-16)	272(-18)	
全体	280	-14.4(22.4)	-24.5(19.5)	-24.1(17.9)	-12.7(19.5)	-15.4(-1)	0.4
製造業（生産財）	29	-41.4(-2.2)	-51.7(-12.6)	-55.2(-7.3)	3.4(46.9)	-21.4(4.7)	3.4
製造業（消費財）	21	-57.1(8.1)	-66.7(4.2)	-65(-4.1)	-42.9(18)	-57.1(-44.6)	4.8
建設業（建築）	27	-11.1(33.3)	-40.7(14.8)	-44.4(3.7)	-11.1(11.1)	-16(2.5)	3.7
建設業（土木）	8	25(25)	12.5(32.5)	12.5(42.5)	12.5(52.5)	-12.5(-12.5)	12.5
建設業（設備）	18	11.1(11.1)	16.7(16.7)	11.1(16.4)	-11.1(-21.6)	-5.9(-5.9)	5.6
商業・流通業	36	-22.2(32.8)	-38.9(23.6)	-33.3(15.4)	-25(10)	-14.3(20.7)	2.8
サービス業（対事業所）	81	-5.1(19.7)	-5(27.2)	-1.2(33.2)	-3.8(22.9)	-3.7(-7.2)	1.2
サービス業（対個人）	60	-8.5(36.7)	-24.1(29.1)	-27.1(22.9)	-19.3(20.7)	-17.5(10.3)	1.7

○ 従業員規模別の動向

100名以上の規模の企業では景況感・売上高DI・利益DIが大幅に改善されプラス域となっています。

第115回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		277(-16)	277(-18)	278(-15)	276(-16)	272(-18)	
全体	280	-14.4(22.4)	-24.5(19.5)	-24.1(17.9)	-12.7(19.5)	-15.4(-1)	0.4
0名～5名	93	-9.9(14.1)	-17.4(13.6)	-12.9(12.3)	-2.2(19.8)	-4.4(7.8)	1.1
6名～10名	48	-16.7(32.3)	-34(23.1)	-31.9(17.1)	-25.5(26.6)	-11.1(13.9)	2.1
11名～20名	52	-25(20.5)	-26.9(27.6)	-30.8(22)	-17.6(30.5)	-26(-12.8)	1.9
21名～30名	28	-21.4(17)	-32.1(16)	-39.3(8.9)	-10.7(4.1)	-21.4(-14)	3.6
31名～50名	24	-29.2(-4.2)	-45.8(-6.5)	-50(0)	-45.8(-27.3)	-39.1(-28)	4.2
51名～100名	18	-11.1(36.3)	-22.2(25.1)	-11.1(46.8)	16.7(48.2)	-16.7(4.4)	5.6
100名以上	17	31.3(87.5)	12.5(59.6)	6.3(50)	-6.3(29)	-11.8(-0.7)	5.9

○ 本社地区別の動向

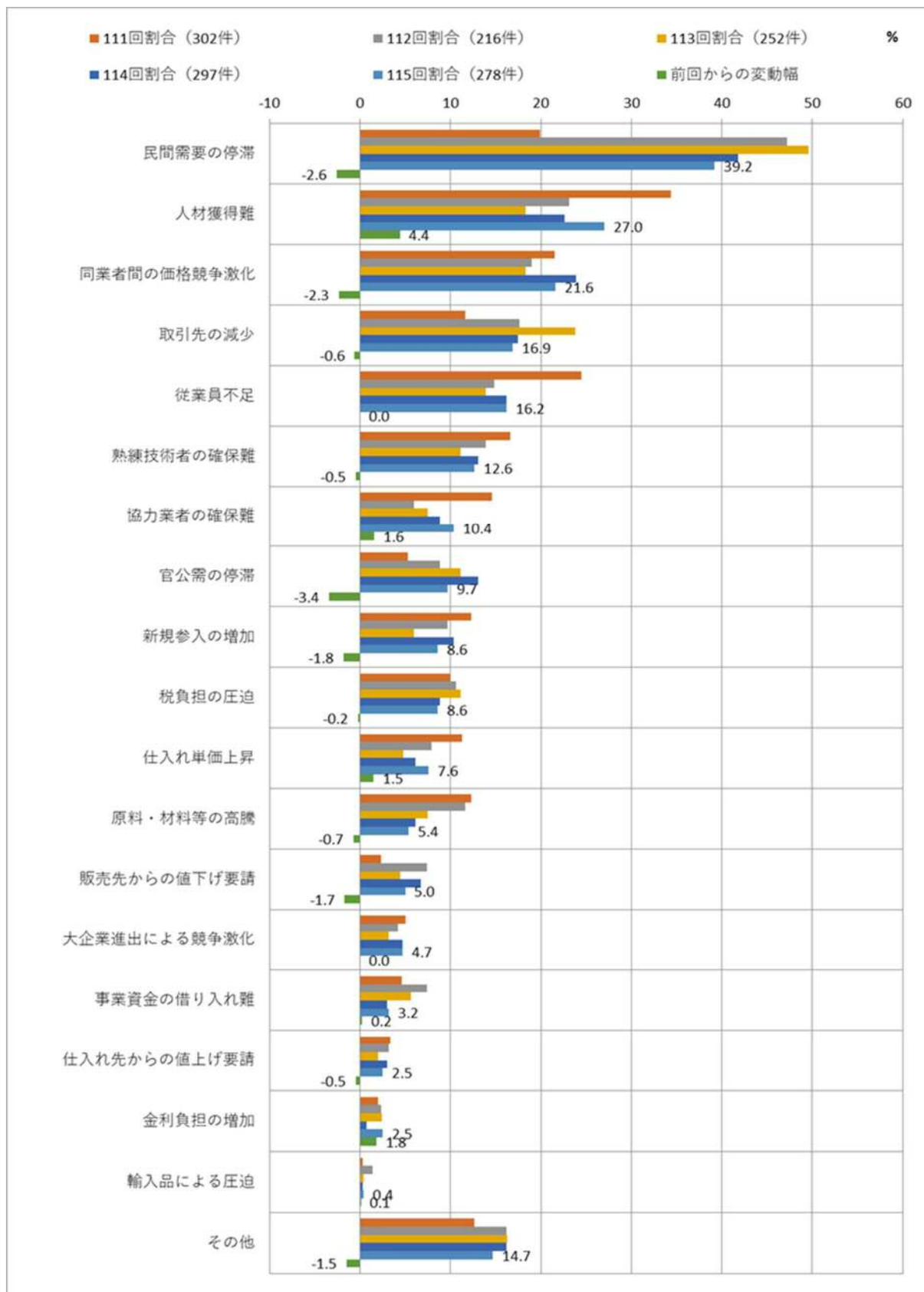
悪化緩和が目立ちますが福岡地区以外は次期予想が悪化しています。

第115回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		277(-16)	277(-18)	278(-15)	276(-16)	272(-18)	
全体	280	-14.4(22.4)	-24.5(19.5)	-24.1(17.9)	-12.7(19.5)	-15.4(-1)	0.4
福岡地区	174	-10.5(25.1)	-20.9(24)	-21.4(21.3)	-15.2(17.1)	-7.6(6.3)	0.6
北九州地区	33	-15.2(34.8)	-45.5(20.5)	-39.4(12.9)	-18.8(21.7)	-35.5(-15.5)	3.0
筑豊地区	33	-30.3(-8.7)	-18.8(0.2)	-28.1(-6.5)	-3(24)	-18.8(-2.5)	3.0
県南地区	35	-22.9(18.1)	-34.3(2.1)	-34.3(20.3)	-8.6(23.2)	-37.5(-23.2)	2.9
福岡県外	5	20(80)	20(60)	80(100)	20(20)	0(-20)	20.0

【経営上の問題点】

● “人材獲得難”が2期連続上昇

「民間需要の停滞」は2期連続で減少していますが最も多い問題となっております。人材に関する問題としては「人材獲得難」が2期連続上昇、「協力業者の確保難」は3期連続で上昇しています。



経営上の問題点を業種別に見ると、
 製造業（生産財）では「官公需の停滞」、
 製造業（消費財）では「税負担の圧迫」、
 建設業では「協力業者の確保難」が共通の課題として挙げられています。
 サービス業では「人材獲得難」や「従業員不足」など人材に関する問題が多くなっています。

%	全体	製造業 （生産財）	製造業 （消費財）	建設業 （建築）	建設業 （土木）	建設業 （設備）	商業・流通業	サービス業 （対事業所）	サービス業 （対個人）
民間需要の停滞	39.2	51.7	57.1	59.3	37.5	27.8	36.1	30.0	35.6
人材獲得難	27.0	27.6	4.8	25.9	62.5	50.0	25.0	30.0	20.3
同業者間の価格競争激化	21.6	31.0	23.8	22.2	12.5	11.1	36.1	17.5	16.9
取引先の減少	16.9	20.7	33.3	3.7	12.5	11.1	22.2	18.8	11.9
従業員不足	16.2	6.9	4.8	14.8	37.5	33.3	11.1	17.5	18.6
熟練技術者の確保難	12.6	17.2	9.5	22.2	25.0	27.8	5.6	10.0	8.5
協力業者の確保難	10.4	10.3	4.8	29.6	37.5	16.7	0.0	10.0	5.1
官公需の停滞	9.7	20.7	4.8	11.1	37.5	11.1	5.6	11.3	1.7
税負担の圧迫	8.6	6.9	14.3	3.7	0.0	16.7	0.0	13.8	6.8
新規参入の増加	8.6	0.0	4.8	3.7	0.0	0.0	11.1	7.5	20.3
仕入れ単価上昇	7.6	10.3	4.8	18.5	12.5	5.6	13.9	1.3	6.8
原料・材料等の高騰	5.4	10.3	9.5	3.7	12.5	5.6	8.3	1.3	5.1
販売先からの値下げ要請	5.0	6.9	4.8	3.7	0.0	0.0	8.3	7.5	1.7
大企業進出による競争激化	4.7	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	13.9	3.8	5.1
事業資金の借り入れ難	3.2	3.4	4.8	7.4	0.0	0.0	0.0	2.5	5.1
仕入れ先からの値上げ要請	2.5	3.4	9.5	0.0	0.0	5.6	8.3	0.0	0.0
金利負担の増加	2.5	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	2.8	0.0	6.8
輸入品による圧迫	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
その他	14.7	13.8	9.5	11.1	0.0	11.1	19.4	16.3	16.9

各業種別回答数に対するパーセント
 色付きセルは業種別の上位五項目

【コロナ禍の支援策について】

<コロナ禍における支援策の利用>

13.給付金・助成金等の申請		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	申請した	160	57.3	57.1
2	申請していない	119	42.7	42.5
	不明	1		0.4
	サンプル数 (%ベース)	280	279	100

コロナ支援策に関する調査では約6割が申請し、半数以上が1ヶ月後に入金されたと回答しました。

14.入金時期は		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	1ヶ月後	84	53.2	52.5
2	2ヶ月後	48	30.4	30
3	3ヶ月後	20	12.7	12.5
4	4ヶ月後	4	2.5	2.5
5	5ヶ月後以上	2	1.3	1.3
	不明	2		1.3
	サンプル数 (%ベース)	160	158	100

<コロナ禍における融資の利用>

15.金融機関からの融資		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	受けた	159	57	56.8
2	受けていない	120	43	42.9
	不明	1		0.4
	サンプル数 (%ベース)	280	279	100

融資利用の状況では約7割の企業が「念のため」融資を受けていることが分かります。

融資を受けた企業のおよそ4割が経営者保証を要求されたと回答しています。

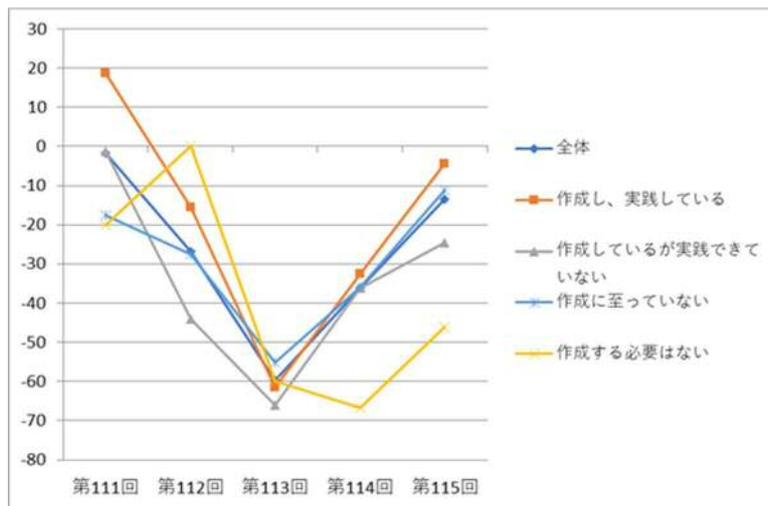
16.融資目的		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	念のため	108	67.9	67.9
2	資産投資のため	10	6.3	6.3
3	つなぎ融資	32	20.1	20.1
4	その他	9	5.7	5.7
	不明	0		0
	サンプル数 (%ベース)	159	159	100

18.経営者保証は要求されましたか		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	要求された	80	36.4	28.6
2	要求されていない	140	63.6	50
	不明	60		21.4
	サンプル数 (%ベース)	280	220	100

【経営指針の作成と実践】

経営指針書の作成と実践		第114回		第115回		増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	作成し実践している	93	31.7	93	33.8	2.1
2	作成しているが実践なし	71	24.2	62	22.5	-1.7
3	作成に至っていない	117	39.9	107	38.9	-1
4	作成する必要はない	12	4.1	13	4.7	0.6
	不明	5	0	5	0	
	サンプル数 (% [^] -ス)	298	293	280	275	-18

<景況感と経営指針書の作成状況のクロス分析>



22.経営指針書の検証について		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	毎月検証している	25	53.2	15.6
2	毎月ではないが検証している	15	31.9	9.4
3	年に1回は検証している	7	14.9	4.4
4	全く検証していない	0	0	0
	不明	113		70.6
	サンプル数 (% [^] -ス)	160	47	100

経営指針書の作成と実践状況を見ると、「作成し実践している」と回答した企業の割合は増加しており、「作成に至っていない」と回答した企業の割合は減少しています。

経営指針書の検証状況では半数以上の企業が「毎月検証している」と回答しました。

クロス分析では「作成し実践している」と回答した企業は景況感が最も高く、「作成する必要はない」と回答した企業は最も低くなっています。

経営指針を明確にした事業の再構築と人材の採用・共育が今後の鍵となりそうです。

～部長談話～

未来の創造が社員のモチベーションアップにつながる